

未来のつばさ



INDEX

P.2 特別寄稿

第7回 子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー

子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会

つなごうオレンジの襷 2013ランナーレポート

P.4 特集

未来へはばたく子ども達

P.6 開催報告

IFCO2013 大阪世界大会

大阪世界大会実行委員会

Vol.17
2013.12



GOAL(横浜・山下公園)
「都心コース」、「湘南コース」、
「鎌倉・三浦・横須賀コース」の
ランナー達が揃っての
ゴールです。

第7回 10月27日開催 子ども虐待防止オレンジリボン たすきリレーを終えて

11月は児童虐待防止推進月間です。推進月間を迎える直前の日曜日(10月27日)、見事に晴れ渡った青空のもと、第7回オレンジリボンたすきリレーを開催することができました。

このたすきリレーは、児童虐待防止啓発のオレンジリボンキャンペーンの一つとして、たすきリレー実行委員会が主催する啓発活動です。子ども虐待防止の象徴カラーであるオレンジ色のたすきをかけて沿道を走り、子ども虐待防止と子どもに明るい未来を訴えるものです。子ども虐待は、一援助者、一機関あるいは一専門分野のみで解決できる問題ではなく、多くの機関・分野の方々の協働が不可欠です。たすきをつなぐことには、多くの人と機関をつないでいく懸け橋の意味が託されています。そして子どもに明るい未来への懸け橋、およびこの活動を他の地域へと広げていく懸け橋という意味も含まれています。2007年に1回目のたすきリレーが開始されてから7年、この活動への参加者は児童福祉の関係者のみならず、学校教諭、地域の民生・児童委員の方々、病院、消防、さらに一般企業の方々などへと、様々な分野に広がりました。

第1回目のたすきリレーは箱根から東京までの1コースで

したが、今は二宮町にある児童養護施設心泉学園からの湘南コース、渋谷八子公前広場からの都心コース、鎌倉の大仏および城ヶ島からの鎌倉・三浦・横須賀コースの3コースとなっています。当時は100名ほどだったランナーも今回は550名を超えました。ゴール地点の山下公園でも様々なイベントが行われるようになり、今回は今までにないたくさんの人たちが集まってくれました。たすきリレーを実施する地域も増え、栃木県小山市、岐阜県、滋賀県、山口県そして今年からは高知県と宮崎県が加わり、さらには韓国の虐待防止のキャンペーンにも我々のたすきが渡るようになりました。たすきの懸け橋は確実に広がっていることを実感します。

たすきリレーを通して、児童虐待防止、そして子どもに明るい未来を届けようとの願いが、全国に、そして世界中に広がっていくことを期待しています。



子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー
実行委員長 増沢 高



2013ランナーレポート

楽天生命の社会貢献活動の一貫でオレンジリボンたすきリレーに参加しました。

都心コースの4区より8名の方と品川児童相談所まで走行。ご一緒した方は都内の児童相談所・児童福祉施設などオレンジリボンの活動に関連ある方々でした。こうした「子ども達の健全な成長」に強い思いをもたれた方々と接することは、日常生活ではなかなかできないことであり有意義な時間を過ごすことが出来ました。

子ども虐待防止に関するこの活動は、現在の大人と将来の大人が健全な精神をもつために意義あるものだと、リレーに参加して改めて感じました。

(楽天生命保険株式会社 社員)



一日一日を大切に過ごしていきたい

■鹿児島県 南さつま子どもの家 出身 奨学支援

私は専修学校理学療法学科1年生です。新たな学生生活ということで不安がいっぱいでした。しかし、今は学生生活に少し慣れてきて、新たな仲間と共に学ぶことがとても楽しいです。勉強に関しては、初めて見る専門用語など覚えることがたくさんで大変です。でも、自分の興味のあることなので、毎日人体構造の緻密さに驚きながら頭の中に入れていきます。また、クラスマッチや宿泊研修など、みんなで一つのものに向かって一致団結することによる達成感を味わえました。そして、夏祭りのオープンキャンパスでたくさんの高校生が参加しているのを見て、自分が迎える側になっていることに不思議な気持ちになりました。1年前のことが昨日のこのようで、改めて時間の早さを感じ、これからの学生生活の一日一日を大切に生きていきたいです。ところで、私は高校の今ウエイトリフティング部で、後輩の指導をやらせてもらっています。自分が指導をする立場になって、改めて人に支えてもらっていることに感謝しております。



施設職員の方より

入学後しばらくして、学ぶことの多さと友人関係に不安になり、5月連休明けに私の所に相談に来ました。全てに頑張ろうとしたまじめさが招いたことのように思いました。1時間ほど話をした後「気が楽になりました」と言い、卒業した高校の「指導者」として、手伝っていることやウエイトリフティングを続けていることなどを話して帰りました。今、自分の夢に向かって、一生懸命取り組んでいるようです。

目標を一つひとつ乗り越えること

■栃木県 里親家庭 出身 奨学支援

私は現在、看護専門学校に通い、一人暮らしとアルバイトで忙しい日々を送っております。一人暮らしを始めてから約6ヶ月が経ち、環境によく慣れてきたところです。生活していく上で不安に感じることはなく、病気をすることもなく生活しております。私が現在不安なのは学校生活です。前期は学校生活に慣れることに努め、同時に日々新しく教わる看護の知識を深めることでいっぱいになっていました。そして、夏休みが明け、新しく学ぶ教科やテストは前期と比べて大幅に増え、私はついていけないかとも不安を感じています。しかし、私が今できることは目の前の目標を一つひとつ乗り越えることだけです。「くよくよ悩んでいる暇はない」と自分を励まし、毎日机に向かって頑張っています。また、まわりにいる友人や先輩からの支えも原動力になっています。私の夢を応援してくださっているまわりの大人や里親さん、そして支援してくださっている皆さまの期待を裏切ることのないよう、夢に向かって精進してまいりたいと思います。



里親様より

申請者は、貴協会からご支援、授業料減免、アルバイト等で生活の基盤が整い、日夜勉学に励んでおります。看護専門学校で学ぶ教科は、高校等で学んだ内容と異なり、その理解と修得に苦勞しているようです。人間の生命に関する勉強であり、生兵法は許されません。強い精神で苦境を克服し、看護師の夢を実現することを信じております。

特集

今年の春から新たな生活をスタートさせた子ども達の近況報告

未来へはばたく

子ども達

社会の厳しさを実感し、多くの人に支えられているという感謝の気持ちを改めて感じている、たくさんの子どもの近況が届いています。

この仕事に誇りを持って歩いていきたい

■神奈川県 子どもの園 出身 自立支援

私は現在、特別養護老人ホームで働いています。老人ホームでの仕事は、毎日学ぶことが多いです。高齢者の方々とお話をしていると自然と笑顔になれ、私自身が元気をいただいています。2回目の夜勤の日、まだまだ慣れず、緊張していた私にある方が、「夜勤お疲れ様。でも、そんなに頑張るすぎてもだめなんだよ」と言ってくださり、泣きそうなくらい嬉しかったのを覚えています。また「笑顔がステキね」と褒めていただいた時、「まわりの人が暖かく見てくださるのだ」と感じました。「また明日も頑張ろう」と勇気が湧いてきます。今まで生活してきた“子どもの園”を離れ、自分一人で生活していくのは当初、不安だらけでした。しかし、生活をして、仕事を始めていくうちに、たくさんの方々のことを学び、たくさんの方々に支えられているということを改めて考え、感じる事ができました。6ヶ月を過ぎようとしている今。私はこの仕事に就いたことに誇りを持って、これからもしっかりと歩み続けていきたいと思っています。



施設職員の方より

本児が老人ホームで勤めようと思ったのは中学になった頃でしたが、働きながらも進学して資格を取ることに不安もあり、高校卒業後すぐ老人ホームに就職しました。当初は、苦しくて落ち込んだこともあったようですが、まわりの人達の励ましを受け立ち直り、最近ではお年寄りから学ぶことも多く、この仕事に就いてよかったと思っています」とはっきり言えるようになっており、その成長ぶりに驚き、心からの喜びを感じております。

社会にでて感じたことは「ありがたさ」「楽しさ」「寂しさ」

■愛知県 駒方寮 出身 自立支援

現在、僕は3直2交替制の勤務形態で働いていて、3日間昼勤、3日間夜勤、3日間休日という形で過ごしています。学生の頃は夜勤というもの想像つかず、どのようなものなのだろうと思っていました。実際に夜勤をしてみると、想像以上に眠く、とてもつらかったです。しかし、最近は徐々に体が慣れてだいぶ働けるようになりました。社会にでて日々の生活の中で感じることは、日頃、まわりにたくさんの方がいて、さまざまなことを手伝ってくれたり、アドバイスをくれたり、時としてたくさん話をした人達がいなくて感じる「ありがたさ」や「楽しさ」そして「寂しさ」などです。正直始めの頃は大変寂しくてつらかったのですが、職場の先輩方がとても優しく、今ではとても楽しい日々を送っています。これからは徐々にではありますが、支えてもらう立場ではなく、支えてあげる立場になることを目標に頑張っていきます。



施設職員の方より

施設から巣立った子ども達の多くが感ずる思い「寂しさ」「施設時代の楽しさ、ありがたさ」等を、一人での寮生活の中で、しみじみと味わっているようです。そういった中で、自己の目標を持ち、頑張っている姿にできる限りの応援をしてあげたいと思っています。社会的擁護から巣立った全ての子ども達にエールを送ります。

IFCO2013へのご協力ありがとうございました

第17回 IFCO (International Foster Care Organization) 大阪世界大会は、未来のつばさ財団はじめ多くの方からご支援いただきましたおかげで無事開催することができました。誠にありがとうございました。全日参加者が500名、1日あるいは2日だけの参加が述べ880名、それにユース(15才から29才)110名、小中学生85名、と予想を上回る参加者となりました。そのためにディナーの会場変更や、資料が間に合わなくなるなど、いくつかのご迷惑をおかけしてしまいましたが、参加された多くの方から好評をいただいたように思います。基調講演にはスコットランドのジェニファー・デヴィッドソンさんをお願いしました。彼女は2009年に国連が発表した「児童の代替的養護に関する指針」作成チームのメンバーであり、児童の視点に立った養育のあり方についてお話がありました。また、この大会では社会的養護の課題、特に家庭養護支援のあり方に関する国内外の取り組みについて、また施設や里親家庭で育った若者の体験談や自立に向けた取り組み、大震災後の子どもたちのケアの重要性、などに関する5つのシンポジウムがあり、さらに57件のワークショップを開催しました。ワークショップには、日本から30件、海外から27件の応募があり、日本でも日頃から児童福

祉に関心を持って積極的に取り組んでくださっている方が多いことに驚きました。里親、行政、施設、研究者の方による多種多様な観点からの話題提供があり、部屋の大きさの関係上、会場からあふれてしまうセッションもありました。準備期間が少なく、このような大きな、しかも国際大会は初めてというスタッフがほとんどでしたから、多少焦ることもありましたが、幸い、厚生労働省はじめ、多くの児童福祉諸団体の協力を得、さらに地元の大阪が、行政、施設、里親会が結束して大会の運営に向かってくださったことにより、参加者の皆様にはご満足いただけたものになったと思います。次のIFCO世界大会は2015年11月にシドニーで開催されますので、多くの方が参加されますことを願っています。日本の社会的養護のあり方は、大きなステップを踏み込もうとしているところですが、新しい動きが子どもたちにとって本当に有意義なものとなるように、これからも皆様からの暖かいご支援をお願いいたします。



公益財団法人全国里親会 会長 星野 崇



ユースによるフラッグ・パレード。117人のユース(海外から20人)が参加しました

開会式



上/里親子による津軽三味線オープニングを飾りました
左/とかしきなおみ厚生労働大臣政務官のあいさつ



アトリウムで「おかし」の出店。子ども達にも大人気でした。(大阪本部提供)



上/アトリウムの「ブース」
左/「シンポジウム」(大ホール)



大阪府観光局提供による開演。15日夜、ディナー会場(シェラトンホテル)にて

海外からの参加者は正装でディナーを楽しみました



上/同時通訳機を耳に、大ホールでの参加者
左/ディナーでの余興。日本の伝統を披露しました



閉会式



右/オーストラリアのブース(アトリウム)
下/里親専門図書館の販売



大阪府警のバンド演奏

9/13(金) 【基調講演】Key Note Address

「児童の代替的養護に関する指針」と子ども中心の社会的養護
特別企画分科会「まずは子どもの声を」
【各分科会】ワークショップ

9/14(土) 【シンポジウム】
「諸外国の里親家庭支援における連携・協働のあり方」
特別企画分科会
「シンポジウム～震災と子ども～」
【各分科会】ワークショップ

9/15(日) 【シンポジウム】
「社会的養護経験者 (care leaver) からの声」
特別企画分科会「アジア諸国における社会的養護」
【各分科会】ワークショップ
ディナー (Social Event)

9/16(祝) 【シンポジウム】
「諸外国における家庭養護の強み・弱み・希望」
【閉会式】
ユースの発表、次回大会プレゼンテーション

ホームページをぜひご覧ください。

ホームページが6月にリニューアルされました！

公益財団法人 未来のつばさ財団

応募要項や施設の先生・施設を退所した先輩からのメッセージをご紹介します。

未来のつばさ

検索

<http://mirainotsubasa.or.jp/>



NPO法人 エキスパート児童福祉支援協会

応募要項や会報誌「未来のつばさ」を掲載しています。

エキスパート児童

検索

<http://www.ex-child.or.jp/>



これまで発行してきた会報誌を各ホームページからご覧いただけます。



公益財団法人
未来のつばさ財団
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10
日本橋インテリジェントフラッツ402
電話:03-5642-7890 FAX:03-3249-7870
E-mail:info@mirainotsubasa.or.jp



特定非営利活動法人
エキスパート児童福祉支援協会
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10
日本橋インテリジェントフラッツ402
電話:03-5642-6330 FAX:03-3249-7730
E-mail:info@ex-child.or.jp